技　術　交　流　会

八重山地区

1. 交流課題

モズク採苗及び養殖技術

2. 目　的

この交流会は、漁業後継者及び漁家生活に関する考え方技術等について、地域相互間の交流を行ない、技術・知識の向上を図るためグループ代表または、代表者を県内または他県に派遣し生産技術等の交流活動を行なうものとされている。（昭和47年水産庁）

本年度は、県内でも優れた養殖技術と本県初のモズク養殖場造成に着手し漁場管理を実践している、伊是名漁協において主に採苗から沖出しにかけての養殖生産技術についての技術交流会を行なった。

八重山地区は、今だ養殖生産にかかわってなく、以前として天然モズクの生産に依存している。昨年から漁協での天然モズクの取扱いが中止されたこともあって、今回の交流会は積極的に養殖生産へ向けて要望の強かった竹富町の漁業者を対象に実施した。

3. 研修地

恩納村漁協、伊是名村漁協

4. 日　程

平成４年１月27～29日

5. 参加者

表－１参照

6. 研修地の概要

伊是名村は、那覇市より96㎞、本部より28㎞に位置し『えにしあらば、またもきてみん伊是名島、田の面に続く松の村立ち』と詠まれ、その詩情は今もかわらず旅人を誘う風向明媚な島である。

伊是名漁協は、正組合員120名、准組合員65名の計185名で組織されている。主な漁業は曳縄、追込網、刺網、潜水器漁業の外は延縄、一本釣漁業を行なっている。年間の水揚高は魚類で262トン、金額18,000万円、昭和53年度からスタートしたモズク養殖生産は、平成２年度1,205トン、金額23,000万円とモズク養殖中心の漁業形態である。

表－1　研修者氏名、所属及び研修状況

研修員氏名	所　　属	研　修　地	研修地での指導助言者	研　修　状　況
大城清一	八重山漁協（竹富町）	水産普及所	嘉数所長 長嶺普及員	＊1月27日普及所にて県内のモズク養殖状況の説明をうける。
大城徳松	同　上			
那良伊孝	同　上	恩納漁協	比嘉指導員	＊1月28日モズクの加工、洗浄ロボットについての説明と意見交換。
友利博明	同　上			
石垣長治	同　上	伊是名漁協	山川組合長 指導漁業士 上原克美	＊同日モズクの採苗及び養殖技術と意見交換
井本由五郎	同　上			
安里　清	竹富町係長	栽培センター	新垣所長	＊1月29日業務概要説明
池田　元	（登野城）			

＊引率者：八重山支庁水産普及員瀬底正武

7. 交流及び研修状況

1月27日水産改良普及所において県内各地区の養殖生産状況についての説明を受けたのち、1月28日の恩納村漁協を皮切りに同漁協では加工技術び洗浄ロボットによるモズクの夾雑物の除去状況について組合の比嘉指導員より説明を受ける。さらに、営漁計画策定後の資源管理型漁業の実践状況について意見交換を行なう。八重山地区においても『八重山漁協地域漁業活性化計画』が策定されているが組織的な実践活動までには至ってなく、研修者の皆さんから実践状況、問題等についての意見が多かった。

恩納漁協を後に、同午後3時30分伊是名漁協で視察研修の打合せを行なう。同午後4時～7時まで現場視察及び意見交換の実施。伊是名漁協での視察研修内容については、以下の通りである。

1) 採苗について

採苗技術については、同漁協組合員で県指導漁業士の上原氏による勢理客地区の共同採苗施設内において、本モズクと糸モズクの採苗状況についての説明を受ける。そのなかで、本モズクの屋内採苗と糸モズクの屋外採苗のちがいについて説明があった。勢理客地区では、本モズクの採苗はできるだけ水温を保温した状態が着生、生育がよく、糸モズクはその逆で屋外で低水温下での着生、生育がよいとのことである。したがって、屋外に設置された採苗タンクにはハウス無しの露地池である。

2) 沖出し後の養殖について

採苗後、(1)育苗地での網の展開方法、(2)芽だし後の本場り漁場での網の展開方法、(3)管理、

(4)収穫方法等について、直接現場に出向いて実践指導を受ける。

3) 完全養殖と省力化

一連の種保存及び採苗から育苗、本張り、管理、収獲、加工処理に至まで10年という短かい歳月にもかかわらず完全養殖技術の確立が図られたことは、現場で実践している生産者の努力のたまものであるという上原指導漁業士の言葉の中からこれまでの苦労の一端が感じられた。尚、基本的な養殖技術については、水産改良普及所で作成された『オキナワモズク養殖の実際』及び水産試験場資料等参考にしたい。

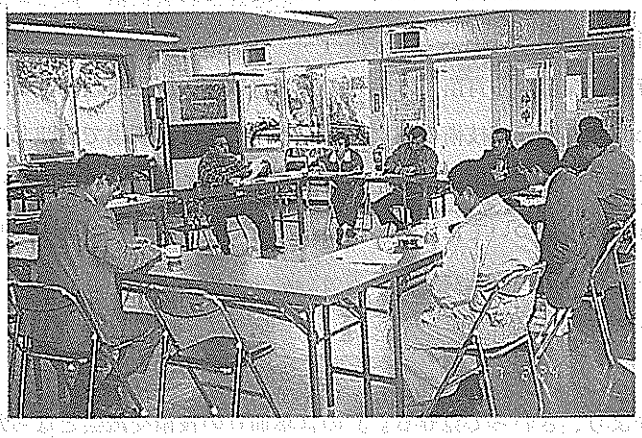
8. 所　感

『言って聞かすより、さわって見せる。』の言葉通りの技術交流会となった。講習会等開催して、言って聞かしても実際に見たこともない新しい技術（八重山地区の場合）については、さわって見せた方が理解が早い。特に、漁業者の場合は日頃の生産活動で培った『かん』が現場では、敏感に働くようである。

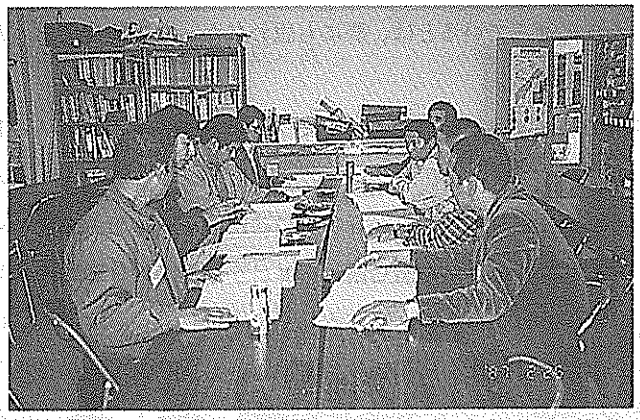
モズク養殖がこんなに進んでいるとは、夢にも思わなかったの連発であった。皆さんには大変感動して帰られたようである。

今後の八重山地区のモズク養殖の歴史をつくるメンバーであられることを期待してやまない。

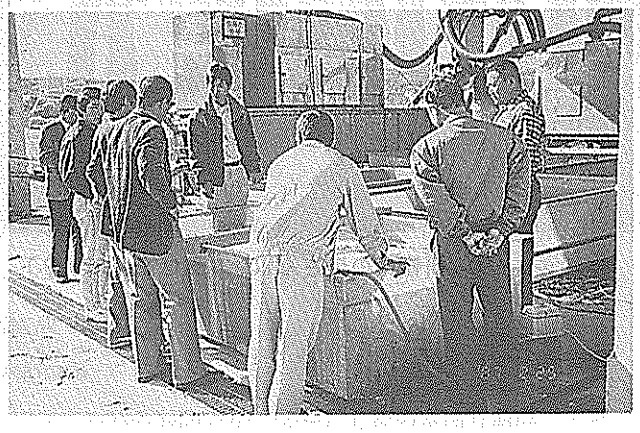
① 研修員の皆さん（ヤル気は充分だが？）



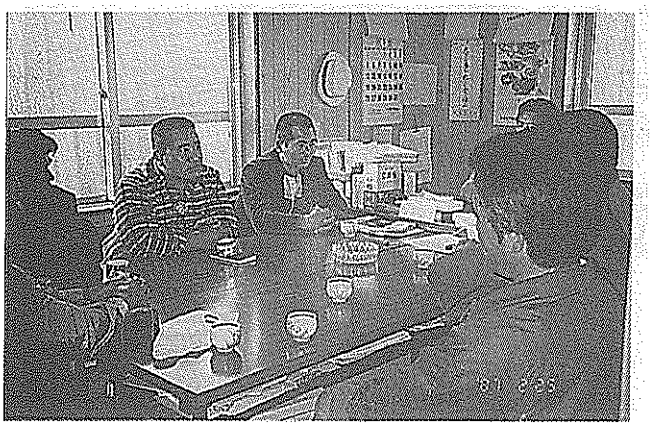
② 普及所長、長嶺普及員の説明を聞く
（モズク養殖とは？）



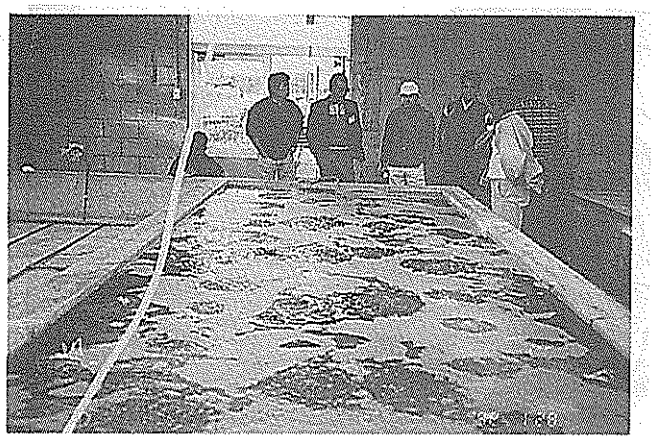
③ 比嘉指導員の説明にうっとり



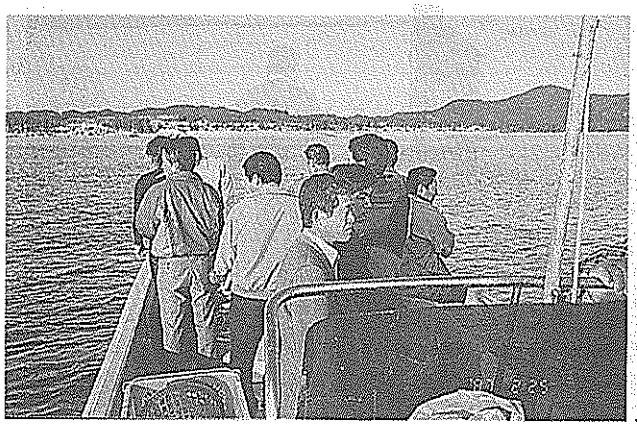
④ 後方の洗浄ロボット、採苗はいかに



⑤　山川組合長の話しに池田氏感激

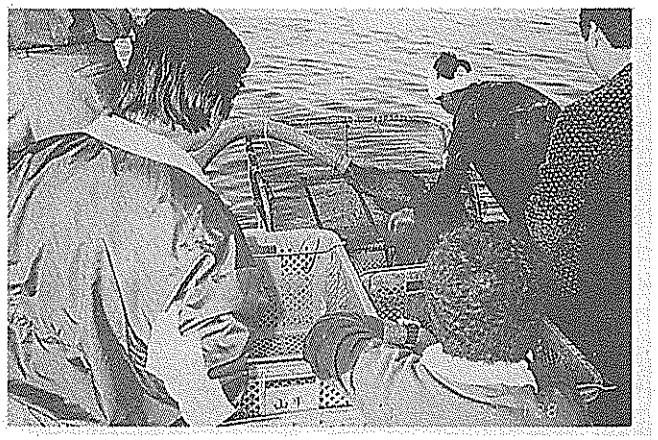


⑥　勢理客の共同採苗場をのぞく

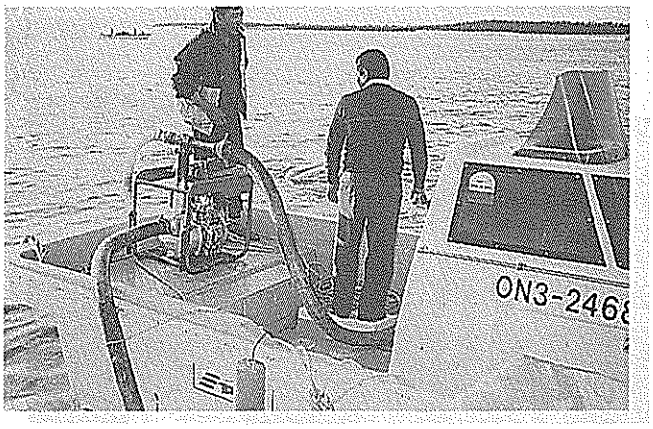


⑦　漁場はどうなっているのか。安里係長無口に？

⑧　マンタのような糸モズクにびっくり



⑨　収穫はいかに／清一氏さっそく購入、手が早い



⑩　「言って聞かすより、さわって見せる」
一同感動して帰る。皆さん大変ありがとうございました。